

令和4年度第2回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 令和5年3月1日（水） 午後2時～午後4時

2 場所 島田市役所4階 第三委員会室

3 出席者

(1) 委員 松本委員、森澤委員、片川委員、榛葉委員
高島委員、岡村委員、松永委員

(2) 事務局 観光文化部文化振興課 佐藤課長、杉山係長、巻本主事

(3) 傍聴者 0名

4 概要

(1) 開会

(2) 議事

○協議事項

- (1) 島田市文化芸術推進計画書の評価結果報告
- (2) 島田市文化芸術推進計画書の評価事業結果報告

「○」委員の発言 「→」事務局の発言

(1) 島田市文化芸術推進計画書の評価結果報告

○：島田市文化芸術推進計画書の評価結果報告について事務局に説明を求める。

→：「資料1」にて報告します。

まず、計画の評価をする理由ですが、「島田市文化芸術推進計画」に基づいて事業が行われたかどうか、また、どの程度行われたか数値を出すことで、成果を計ることが目的にあります。

評価の対象としたのは、計画書冊子54ページ以降の資料5以降の「市の取組み」を対象としています。

それでは、計画書の事業に対して設定した評価指標と実績値などの数値を報告します。

全体的な傾向として、令和4年度は前年度と比較すると実績値が増加した事業が多く見受けられました。これは、令和2年度・3年度に新型コロナ

ウイルスの影響により縮小していた活動が、回復してきているものと考えられます。

対象事業数は111件ですが、今回の協議会での報告は、昨年度実績値に対して今年度実績見込に大きな乖離が生じているもののみ御説明します。

【資料1】 1ページ目をご覧ください。

説明にあたり、今回御確認いただく箇所を説明します。

表中の網掛けしてある、令和3年度実績及び令和4年度実績見込を比較しました。なお、先ほど申したように、令和3年度はコロナの影響を受けているところがあるため令和3年度実績の左のセル、令和元年度実績も併せてご覧ください。

それでは、番号1市民文化祭から御説明します。本事業は、市民の文化芸術活動の最も大きい発表の場として、文化振興課に置きましても重要事業と位置付けているところです。コロナ禍で縮小しておりましたワークショップや音楽芸能部門の再開によりコロナ禍以前の数値には戻っておりませんが、出演者数及び来場者数が増加いたしました。これにつきましては、資料3にて後ほど詳細を説明させていただきます。

次に、番号11芸術家派遣事業をご覧ください。これは、いわゆるアウトリーチ事業で、様々な事情により、文化施設で開催する文化イベントに来場することができなかつたり、関心が薄く積極的に来場されることがない市民の皆様に芸術文化の鑑賞機会を提供することで、文化芸術に親しむ環境を作り出すことを目的としています。

今年度は昨年度の2回から2回増え、4回実施することができました。内訳は、5月のこどもの日に島田市博物館の子ども向けイベント内で1回、7月に蓬萊橋近くに完成した897.4広場オープニングイベント内で1回、11月に小学校にて1回、2月に地域の交流施設において1回となっています。

本事業につきましては、来年度は一層周知に力を入れることとし、その対象を第1に小中学生、第2に福祉施設及び公民館と設定し、来年度に向けて市内小中学校へ通知を送付したところ、既に3校の小学校より派遣に係る申請を御提出いただきました。

次に、4ページの番号24、芸術文化普及事業をご覧ください。芸術文化普及事業は、市の主催により芸術公演等を行うものです。今年度は4回の事業を行いました。

その内訳は、「宝くじまちの音楽会」として南こうせつ氏のコンサート、「街角演劇」として島田市を舞台に書き下ろした小規模の演劇公演、劇団わらび座による「ミュージカル北斎漫画」、3月に開催する子ども向けの「音楽の絵本ダブルクインテット」となっています。

音楽を2件、演劇を2件でしたが、演劇の方は2件とも集客に苦戦するという結果となりました。

来年度の計画としましては、NHK 教育番組わくわくさんとして有名な久保田雅人氏による親子工作教室、NHK ラジオ番組の公開収録を予定しているほか、秋に新庁舎開館記念イベントとして音楽のコンサートを調整しております。

次に7ページ番号43をご覧ください。蓬萊橋から川越街道への観光客の流れを作り出す川越街道にぎわい創出プロジェクトは、番宿の活用や朝顔の松公園でのマルシェなど7回のイベントを開催しました。

関連事業として、12ページ番号70に街道宿場イベント事業「和菓子バル」があります。島田市に和菓子店が多数あることに着目し、和菓子を島田市の特徴的な文化として、川越し街道に各店から和菓子を集め販売するイベントです。コロナの期間中も感染症対策を取りながら実施し、今年度は4回目を迎え、川越街道の事業として定着しました。来場者数は昨年度より400人増加し約2,000人となりました。

次に8ページ番号47をご覧ください。東京オリンピックの関係では、当市は平成26年度から出場チームの誘致に取り組み、シンガポールの卓球と、モンゴルのボクシングのナショナルチームを受け入れました。

オリンピック関連事業は令和3年度で終了しましたが、このレガシーとして、シンガポール卓球協会と、引き続き島田市で合宿を行うことの協定を締結しており、今後も交流を継続していく予定です。

また、モンゴルとの関係では、教育・文化交流として、7ページ番号40にありますランドセルの寄贈事業を続けているほか、令和2年度から、ウランバートル市内のナラン外国語学校と市内中学校の生徒によるオンライン交流を実施しています。

10ページをご覧ください。番号58、島田大井川マラソンにつきまして、今年度3年ぶりに開催いたしました。感染症対策のため、定員数をコロナ前と比較して減員する等規模を縮小しましたが、6,462人の方に出走していただきました。また、交流都市である大韓民国東豆川市からもマラソンに参加していただきました。

島田大井川マラソンに関連しまして、16ページ番号96 島田大井川マラソン in おもてなし会場しま旨をご覧ください。これは、ランナーや応援の人をおもてなしするための事業です。おもてなし券使用枚数を評価指標としておりますが、おもてなし券はランナーにゼッケンと一緒に配布される500円分の券でマラソン会場だけでなく市内の協賛店舗で使用可能ですが、配布枚数に対して使用枚数が減となりました。コロナ禍により大会の帰りに市内で飲食をしていく方が少なかったものと考えます。また、大会

前日から翌月まで使用可能ですが、大会参加者は市外からの参加者が多いため後日使用する方が少なかったのも要因と考えます。

次に番号 97 街角ライブ支援事業は、イベント企画者と音楽やダンスなどの発表の場を求めているアマチュア活動家の方とのマッチングを行うものです。令和 3 年度 1 回に対し、令和 4 年度は 3 回のマッチングをすることができました。この事業につきまして、来年度からより積極的に取り組んでいくこととし、登録者及び参加イベントの増加を目指し、周知を強化していこうとしております。

以上、簡単ですが、計画書の評価結果報告について説明を終わります。

なお、評価対象の事業の中には事業の見直しにより終了した事業もいくつかあります。反対に、新たに開始した事業もあり今後評価対象として加除していくよう、来年度の中間見直しにつきましては、対象事業の見直しを行っていきたいと考えております。

- ：市民文化祭について、市当局が文化祭実行委員会事務局と反省会を行ったと聞いたが、実際に文化祭を取り仕切っている文化祭実行委員とは別である。実態とかけ離れたところで反省会が行われているため文化祭に携わっている人たちの意見が反映されていない。
- ：111 件の評価結果報告を提示されても、委員はどのようにアドバイスをすべきかわかりにくい。年ごとに一つのテーマに絞り、現場を見て、しっかり考えてはどうか。
- ：文化祭に関しては、文化祭実行委員会事務局が実行委員会の意見を集約しているものと考えて反省会を行ったが、今後は実行委員と協議をさせていただきたい。
- ：実行委員会の実態を知ったうえで評価をすべき。
- ：来年度は年 3 回の協議会開催を予定しており、1 回は催事等の視察を予定している。
- ：視察先は、諏訪原城などの文化施設を見に行くのか、文化祭などの行事を見に行くのか事務局と協議会会長にて検討をしていく。
- ：文化祭については、文化祭実行委員からの反省点等を文化祭実行委員会事務局にてまとめ、市へ報告している。そのため、視察先が文化祭であれば有難いがそれにこだわる必要はなく、協議会として視察に行くことに意義があると考えます。
- ：質の評価をどのようにするか。芸術というのは質を担保することが重要である。継続事業が多い事、量的な評価に留まっているものが多いので、事業を新規で開始するものや廃止すものの判断がしにくい。
- ：量（回数）での評価をすると、質が低いものでも回数をこなしていくようになってしまう。

- ：分野を超えて共有しやすいのは、量的評価であるためこの評価方法も1つの手段であるが量が増えたものに関しては、どのような質のものが増えたかを明記すべきである。例えば、アウトリーチの回数が減ったとしても、今までとは違う対象者が参加しているのであればそれは成果であり評価の対象である。
- ：今まで芸術に携わっていなかった人が携わるようになる、0から1にすることが芸術文化は難しいところである。
継続事業ばかりではなく新規事業も大事である。
- ：番号11 芸術家派遣事業は、どのようなものか。派遣する芸術家は市で決めるのか。
- ：派遣可能な芸術家一覧を市で作成しているため、その中から派遣希望先が芸術家を指定し、市が派遣希望先と芸術家を繋げる役割を担っている。登録されている芸術家は事業の趣旨に賛同し協力いただいている方たちである。
- ：芸術家一覧はどのように作成をしてきたのか。
- ：島田市にゆかりのあるプロの方を主としており、市内文化施設にて演奏をされた方や出身者などに声をかけている。
- ：芸術家派遣事業について、100万円以下の予算、4回の開催という数値だけ見てもどのようなことをしているのかわかりにくい。
- ：今年度実施した1例は、小学校に派遣した。東京で活躍する声楽家はその小学校出身者であったため、派遣先から希望され、生徒の前で声楽を披露し一緒に校歌を歌う経験を提供できた。
- ：文化施設へ来てもらうのを待つばかりでなく、芸術家が出向くことが重要となってきた。音楽以外の芸術家登録もあるのか。
- ：ダンスの方などもいる。
- ：4ページ番号21 文化施設・管理運営について、予算額が令和3年度から令和4年度は増額されているが、人件費や光熱費が上昇している中、令和4年度から令和5年度は減額になっている理由はなにか。
- ：修繕費の差額によるもの。燃料費の高騰などについては、指定管理期間が5年間のため、指定管理料で対応できない面もある。
- ：指定管理料というのは通常指定管理期間は均等である。他市の例で、前年の税収が低ければ指定管理料も減額となるなど前年の税収に応じて指定管理料を変更している自治体がある。指定管理者は、そのような際のために、収入を貯めているとのこと。収入を貯めるために、事業を削減していたと推測できる。島田市は、指定管理料が均等割であるためそのまま良いと考える。
- ：光熱費の高騰についての対応は市が検討すべき。

- ：5年間という指定管理期間ではあるが、5年先の社会情勢を考慮するのは不可能であるため、指定管理期間を3年程度に変更すべきか検討をしていきたい。
- ：市内3文化施設は、文化の発展の中心施設である。施設利用料を増額させることは可能か。
- ：指定管理期間の短縮については、事業を企画する側として3年は短すぎる。指定管理期間は長くなってきた経緯がある。
- ：指定管理期間を3年にするという案は、柔軟な対応が可能かもしれないが、雇用の安定を保証できない。また、文化の事業というのは3年で結果を出すのは難しい。
- ：先程話があった施設利用料の増額について。電気代が高騰している中、市でも検討を行っているが、利用料の増額により利用率が減少することを懸念している。
- ：運営するにはこれだけ必要だと、市民の理解を得る必要がある。
- ：昨年度の協議会の際に、【資料1】では数値的評価のみで実施内容の評価が見えてこないため、評価方法の検討をするとのことであったと思うがどのようになったか。
- ：今回から【資料2】及び【資料3】の評価シートを新たに作成している。

(2) 島田市文化芸術推進計画書の評価事業結果報告

- ：島田市文化芸術推進計画書の事業評価結果報告について事務局に説明を求める。
- ：【資料2】島田市文化芸術推進計画書の事業評価シートについて説明します。
 今回、9本の施策の柱ごとに、継続事業及び新規事業を1つずつ抽出し事業評価シートを作成しました。抽出に当たっては、文化振興を主の目的とした事業を抽出しております。
 次に、評価シートについて説明します。
 【資料3：説明】という資料をご覧ください。評価項目につきましては前回協議会にて決定いたしました、アートマネジメントの3つの視点である「組織の持続的運営」「事業のプロデュース」「マーケティング」とし、それぞれ担当課にて自己評価を行いました。
 今回の協議会では、【1 市民文化祭】、【3 諏訪原城宣伝隊の結成・活動】及び【8 文化芸術公式 YouTube・Instagram】の3事業について報告させていただきます。
 担当課からの説明を行った後、委員の皆様よりアドバイス等いただければと思います。

それでは、資料3の1「市民文化祭」について文化振興課より説明いたします。

運営組織は島田市と島田市民文化祭実行委員会です。島田市民文化祭実行委員会が主体となって企画運営を行い、市はアドバイザー的に関わっています。

運営企画の方法は出品者数、出演者数、観客者数を増やすため島田市及び島田市民文化祭実行委員会にて検討しております。工夫した点は、感染症対策を実施し、ワークショップ及び茶道体験の実施。チャリティ募金をしてくれた方に陶芸作品の配布。芸術文化奨励賞受賞者の作品展示です。通常の展示やステージ発表のほか、新型コロナウイルスまん延により中止していたワークショップ及び茶道体験を3年ぶりに行いました。

次年度目標は令和4年度の市民文化祭出品者数、出演者数、観客者数の合計人数5,148人を上回ることです。

また、学生からの出品を増やすため夏休み期間中の作品募集を実施するなど検討を行っております。今年度は、島田実業高等学校から俳句120点、島田商業高等学校から写真15点のほか、書道、ペン書道、絵画に中高生の出品がありました。

また、出張文化祭として、六合地区・初倉地区・金谷地区の公民館にて受賞作品の巡回展示を来年度より実施する計画をしております。

マーケティングに関しては、方法はSNS、広報誌、FM島田、新聞掲載を行いました。工夫した点は芸術文化奨励賞の授賞式を文化祭開会式と同時開催することで新聞へ掲載されました。また、課及び文化協会のInstagramをこまめに更新することで周知に繋がったと考えます。文化祭開催の周知を目的に、例年別途執り行っていた芸術文化奨励賞受賞者の授与式を島田市民文化祭開会式と同時に行いました。結果、静岡新聞に記事を掲載していただきました。

また、芸術文化奨励賞受賞のきっかけとなった「第68回全国展フォトコンテスト」で最高賞を受賞した作品を文化祭の会場内で展示したことにより、集客増加に繋がったと出品者の方々からお声をいただきました。

その他、ポスター原画を島田工業高等学校美術部に依頼し、ポップなイメージのポスター及びチラシを作成しました。

市民文化祭の課題として、より多くの市民の皆さんに出品したり来場したりしていただき、市民みんなの文化祭としていきたいと考えています。

出品者数の増加や来場者数を増やすためのアドバイスなど委員の皆様からいただければと思います。よろしくお願ひします。

- ：市民文化祭は、来場者も出品者も高齢者の方が多いと思うが、マーケティングに記載されている Instagram の開始やポスター画を高校生に描いて

- もらうなど別のターゲットに向けた取組をより詳細に記載した方が良い。
- ：ポスター画を高校生に描いてもらう件に関して、平成 25 年度から継続していることだが、コロナ禍により高校の美術部の活動が中止となっていたためポスター画を描いてもらうことができなかつた年もあり、今回再開できたという経緯がある。
 - ：そのような経緯も評価シートに記載しても良いと思う。
他の自治体で学生に出品してもらうため、試行的にイラスト部門を 3 年間募集したところたくさんの応募があった。
そのため、4 年目からはイラスト部門を正式に新設したとのこと。島田市は新しい動きはあるか。
 - ：ポスター画を高校生に描いてもらうことは来年度も決定している。
 - ：高校生部門など、新たな分野を新設するのも良いと思われる。学生が文化祭に関われば、SNS の発信力もあるため効果がある。例えば、出演する際に情報発信も条件にするなど多面的に関わってもらえば学生も得意分野を發揮できる。
“つどい”という言葉は、古い感じがする。名称も検討する方が良い。
 - ：既存の部門をなくさず、新たな部門を新設することは可能か。
 - ：全部門の意向を確認しなければ、新設は難しい状況である。
 - ：部門を新設するのではなく、既存部門の発表の際に見に来た人が体験できる時間を必ず設けるなど新たな参加者を呼び込む努力をしてはどうか。
 - ：文化祭に係る事務を文化祭実行委員会事務局が担っているため、文化祭実行委員に任せてみるのはどうか。
 - ：どの部門も後継者の育成に苦労している。若い世代がどのように関わってくれたかが成果に繋がると思う。
 - ：運営組織の次年度目標が「継続」とあるが、ここに記載すべきことは、島田市と市民文化祭実行委員がもっと連携していくなど継続という目的だけではなく少しでも発展させていくべき。
 - ：市民文化祭の部門で、新規の部門は今年度あったか。
 - ：新規部門はないが、音芸部門であればクラシックバレエやヒップホップ、ベリーダンスが新たに出演した。
 - ：チラシからはそれらが読み取れないので、記載した方が良い。
 - ：評価シートの内容についてインプット、アウトプット、アウトカム、インパクトが必要だが、全ての評価においてインプットアウトプットのみしか記載されていない。
 - ：アウトカムについては、来年度の中間見直しの際に計画を策定してからの 3 年間の成果を評価していただきたい。
単年度評価の内容のためアウトプットまでの記載になっている。

継続事業については、来年度以降も必ず継続されるわけではなく中間見直しの際に事務局から成果を報告し委員の皆様には、継続すべき事業か、発展させる事業か御意見をいただきたいと考えている。

→: それでは次に、資料3の3「諏訪原城宣伝隊の結成・活動」について博物館課より説明します。

まず初めに、諏訪原城について簡単に説明します。諏訪原城は、天正元年（1573）に武田勝頼によって牧之原台地の上に築城された山城ですが、築城から2年後の天正3年（1575）に徳川家康によって攻め落とされ、それ以降「牧野城」と呼ばれるようになりました。家康が関東へ移った頃（天正18年頃（1590））に廃城になったとされています。

武田氏が築いた城に多く見られる「丸馬出」という城の防御施設が良好な形で遺っており、さらにその大きさが日本最大級であるという特徴があります。これまでは、「丸馬出」が多いことから、現在見られる諏訪原城は大部分が武田氏によって築かれたとされてきました。しかし、発掘調査の結果、武田氏時代の諏訪原城はほんの一部であり、ほとんどが徳川氏の時代に増築、改修された可能性が高いことがわかってきました。

城郭研究者の皆さんが徳川家康を語る上で欠かせない城であり、現在全国の山城ファンからの注目を集めている城です。

それでは次に、「諏訪原城宣伝隊」について説明させていただきます。「諏訪原城宣伝隊」は、令和2年に「諏訪原城応援隊」という名前で、落語家でお城愛好家の春風亭昇太師匠を隊長に、日本城郭協会に所属し、諏訪原城跡整備委員会委員でもある加藤理文先生、島田市出身のフリーアナウンサーである片川乃里子氏の3人で結成しました。その目的は、著名人である昇太師匠を応援隊の隊長とすることで、諏訪原城の全国的な認知度の向上を図るためです。

活動内容は、毎年諏訪原城応援隊イベントを開催し諏訪原城跡の現地ツアーやトークショー、ポイント解説会を行っています。

令和4年度は、諏訪原城跡のPR事業として始めてフォトコンテストを開催し、諏訪原城応援隊の皆さんに特別審査員をお願いしました。

また10月9日（日）にイベントを開催し、午前の部では金谷の夢づくり会館で「春風亭昇太の城の魅力まるわかりトークショー」を実施、午後の部では諏訪原城跡で「諏訪原城ポイント解説会」を行いました。

参加者は、午前の部は182名、午後は56名の方が参加してくださいました。

午前の部のトークショーでは、第一部に春風亭昇太師匠の特別講演会を行い、昇太師匠が時に笑いを交えながら、『お城の楽しみ方の極意』について熱く語ってくださいました。

第二部ではフォトコンテストの表彰式を行い、昇太師匠から受賞者の皆さんに賞状を賞品の授与を行っていただき、その後に応援隊と、同じく特別審査員を務めていただいたモリサワフォトスタジオを運営されている森澤委員に入賞作品を見ながら入賞したポイントなどを解説していただきました。

第三部では、俳優でイベント等において家康公を演じられている石神リョウ氏をゲストにお迎えし、応援隊と共に諏訪原城の『お城好きを〇〇に活かしています』『諏訪原城のここが好き！』『諏訪原城見学の楽しみ方』という3つのテーマに沿ってトークショーを行いました。

午後の部は諏訪原城跡に移動し、諏訪原城応援隊と石神リョウ氏による「諏訪原城ポイント解説会」を実施しました。

諏訪原城跡の見どころである「二の曲輪中馬出」「本曲輪」等のポイントで応援隊がその場所の解説を行い、参加者たちは実際の城跡を見ながら諏訪原城に対する知識を楽しく学ぶことができました。

また、令和4年度はこれまで実施していたガイドツアーではなく、ポイント解説会としたことで、タイムスケジュールに余裕を持たせ、応援隊が自由に解説できるように工夫しました。

このようなイベントを、毎年1回開催しております。

春風亭昇太師匠に諏訪原城応援隊隊長になっていただくことで、イベント開催情報が新聞等に掲載されやすくなり、また掲載された際に読者の興味を引きやすいという利点があります。さらに、テレビのお城に関する特番で昇太師匠が諏訪原城を取り上げてくれることが多く、番組放送後には来場者数が大幅に増加しております。

今年は諏訪原城が築城されてから450年を迎える記念の年です。さらに、現在放送中のNHK大河ドラマ「どうする家康」においても、「牧野城」として登場する可能性が高く、諏訪原城跡に対する注目度が大きく向上する年になると思います。

そのため、令和5年度は島田市博物館で諏訪原城の企画展を開催し、その企画展にゲストとして諏訪原城応援隊に登場していただくなど、応援隊にはますます活躍していただく予定です。

以上、「諏訪原城応援隊の結成・活動」に関する報告を終了いたします。事務局：資料3の8「文化芸術公式YouTube、Instagram」について説明します。

YouTubeは令和2年度から、Instagramは今年度から開始しました。令和5年3月1日時点でのYouTubeのチャンネル登録者数は102人、Instagramのフォロワー数は283人であり、伸び悩んでいる状況です。

YouTubeに関しては、市職員に動画編集を行う技術がないため基本的には、

イベントに併せて映像制作を発注したり、外部団体やアーティストから完成した映像を提供されて掲載している状況にあります。コンテンツを増やすことや閲覧者数を増やすためにどのようなことをすべきかアドバイスをいただきたいです。

- ：大学の Instagram では、学生と広報室が連携し、学生が撮影した写真に学生が考えた文章で掲載をしたことがある。高校生と連携し、文化芸術の発信を担ってもらうのが良いと思われる。

写真は小さく表示される多くの写真の中から選んで開かれるので、インパクトのある写真を心がけるとよい。

- ：どんど焼きなどの四季折々の市内行事もコンテンツになる。

閉会